

JICA 中国事務所ニュース 3月号

目次

【最近のトピックス】

- ◎ 「心のケア人材育成セミナー」を開催…………… 1
- ◎ 食の安全セミナーを開催…………… 2
- ◎ 医療分野帰国研修員同窓会による無料問診活動を実施…………… 3
- ◎ 気候変動、CDMに関する日中関連政策研修セミナーを実施…………… 4

【ニュース】

- 中曽根弘文外務大臣にお会いして…………… 5
- 日中環境協力フォーラム開催…………… 6
- 住宅省エネプロジェクト成果発表セミナーを開催…………… 6
- 2008年度JDS留学生第1陣の8名が日本へ出発…………… 7
- 上海で「省エネ推進セミナー」を開催…………… 7
- 早稲田大学、慶応大学、名古屋市立大学の皆さんが相次いでJICA事務所を訪問…………… 7

【人の動き・主要行事】…………… 8

【寄稿コーナー】…………… 9

【帰・赴任者紹介コーナー】…………… 11

【中国の動き】…………… 12

最近のトピックス

◎ 「こころのケア人材育成セミナー」を開催 ～地震大国日本の経験を四川大地震の被災地へ～



模擬授業ではリラックス法も実演しました

昨年5月12日に中国西部で発生した四川大地震の復興支援の一環として、JICAは2月23日～2月25日の3日間、被災者に対し

てこころのケアに従事する関係者を対象にしたセミナーを、四川省成都市で中華全国婦女連合会と共同で開催しました。

セミナーには、四川省、甘肅省、陝西省の現場レベルで支援を続けているコミュニティ活動従事者、学校教員、心理専門家、看護師など、100人以上が参加しました。日本からは兵庫県内の専門家、学校教員らが参加。1995年に起きた阪神・淡路大震災の際に地域で実施した支援活動や、教育現場における心のケア対策の経験を伝えたほか、心のケアの実践的な手法を紹介しました。中国側の専門家からは、中国で行っている心のケア活動や課題などについて紹介がなされました。セミナー期間中、教育関係者などを対象にし

た分科会も開催されました。

参加者からは「震災以降、学校の生徒たちの情緒が不安定となり対処に苦労している」といった状況報告や、専門的な支援がなかなか得られない中で様々な工夫をしながら活動していることが報告され、日本側、中国側の専門家がアドバイスするなど、活発な意見交換や質疑応答が行われました。

日本の専門家も全員が阪神大震災の被災者であり、災害の悲劇を振り返って日本専門家、中国参加者に涙する場面もある等、大災害を経験した者同士として、共感を持って迎えられました。

阪神大震災の経験では、こころのケアの活動は、長期的な取組みが必要ですが、活動の中で孤独感にさいなまれ、燃え尽きて被災地を後にするこころのケア従事者も少なくなかったそうです。今回のセミナーでは、技術の向上だけでなく、100人ものこころのケア従事者が集まり、お互いの現場の問題を相談しあって「こころのケアの活動で試行錯誤しているのは自分ひとりだけではない」といった雰囲気を作ることもできました。

災害地こころのケア人材育成プロジェクトは本格的な始動に向けて準備が進められています。地震大国日本の知恵と経験を活かしつつ、現場のニーズに合ったケアに役立つ協力ができるよう、長期的に取り組んでいきます。(OJT職員 土居健市)

◎ 食の安全セミナーを開催！

2009年2月23日から27日までの1週間、JICAは中国国家質量検疫総局と共に、「食品の安全」に関するセミナーを開催しました。このセミナーは、中国の輸出入食品の残留農薬、動物医薬品の検査体制の整備を目的として今年2月から始まったプロジェクトの初めての活動です。セミナーでは、厚生労働省神戸検疫所の専門家3名が、日本の食品中の農薬、動物医薬品の検査技術、試験検査室の精度管理技術などを、中国の食品の安全を担当する技術者へ紹介しました。

プロジェクトの実施に関する合意文書が結ばれたのが1月19日。その後すぐに中国では春節(旧正月)という1年でも最も長い休暇を迎え、セミナーの準備期間が非常に短かったものの、中国からの参加者は実施場所である青島はもとより、内蒙古自治区、新疆ウイグル自治区、四川、広東と、広い中国全地域からそれぞれ1名ずつ集められ、中国側の食品の安全へ取り組む強い意欲が見て取れました。



中国全土から約60名の参加を得ました

セミナーでは、開始当初こそ、専門家の講義にときおりざわめきが起こる程度でしたが、次第に活発な質問、意見交換が行われ、3名の専門家全員に「1番感動したことは、研修員の方々が非常に真摯で熱心だったこと」と言わせたほどでした。毎日1時間とっていた質疑応答の時間はそれでも足りず、休み時間にも専門家の周りには人だかりができていました。また、多くの参加者から「日本人の専門家と直接交流ができ、日本の試験方法を学べたことは非常に大きな成果だった」というコメントがあった一方、「日本での実際の研修が一番効果的である」という、訪日研修参加への熱い想いが寄せられました。

昨年は餃子、粉ミルクなど、中国産のさまざまな食品の安全に関する問題が大きく取り上げられ、中国国内だけでなく日本をはじめとする世界各国で、中国の食品安全に関する関心が高まっています。今中国ではその信頼回復のための努力が行われています。

「悩」→「始」。今回参加いただいた専門家のお一人の、中国に来る前の気持ちと、研修

終了後の思いです。研修に関する様々な悩み・不安が1週間の研修を経て、プロジェクトの第一歩を踏み出した実感とともに、このプロジェクトだけでなく日中協力関係の始まりになれば良いなという気持ちへかわった、ということです。両国専門家の交流を促進し、さらなる協力関係を築いていこうという気持ちは、中国側も同じです。

「中国と日本、それぞれで食品の安全性を担う部署を担当する者同士、これからもお互いに協力しあって、良い関係を築きあげていければと思います」これは専門家のお一人が中国の参加者に残されたメッセージです。

本プロジェクトは2年間で、中国での研修と日本での研修をそれぞれ2回ずつ実施する予定です。両国専門家による「人と人」の交流を通じ、両国間の相互理解がさらに深まり、プロジェクトの目標が達成されることは勿論、人々の中国の食品に対する「安心感」につながる協力になることが期待されます。

(改革開放・ガバナンス班 倉科和子)

◎ JICA 医療分野帰国研修生同窓会が 四川地震被災地で無料問診 ～帰国研修員同窓会員から～



患者に囲まれた JICA 医療分野の帰国研修員達

2009年2月26日～3月1日、JICA 医療分野帰国研修生同窓会(以下、「JICA 同窓会」とする)の専門家代表団一行25名が「5.12」四川大地震の重度被災地に赴いて4日間にわたる無料問診を行い、まだ肌寒い2月に、全国各地の医学界からの温かさを被災地の人々に届けました。

今回の JICA 同窓会の専門家問診団は衛生部の中日友好病院、四川省人民病院、安徽医科大学第一附属病院、広西チワン族自治区人民病院、広州医学院第一附属病院の専門家と医療分野のリーダーから構成されています。今回の無料問診は JICA 同窓会の設立以来、最大規模、最多人数で、医療分野が最も広範なものとなりました。また、四川でボランティア活動を行っている2名の日本青年海外協力隊員(理学療法士と看護師)も今回の無料問診に積極的に参加し、JICA 同窓会の専門家とともに日中両国民の友好関係を深めました。

胡錦濤国家主席と温家宝國務院総理もこれまでに、被害が極めて深刻な綿陽市北川県擂鼓鎮と什邡市を自ら慰問して被災者を励ましています。今回の無料問診は北川県擂鼓鎮、陳家壩鎮および什邡市の人民病院で行われ、専門家らは苦勞をいとわず、露天の下で、臨時テントの中で、またはレンガを積み上げた診察台の前で、診療を求め、薬を尋ねる現地の患者のために診療を行いました。よく見られる病気の診察台の前では被災者が長い列をつくり、彼らは全国各地から集まった JICA 帰国研修生である著名な専門家が被災者のために無料問診を行うという情報を事前に耳にし、当日は早朝4、5時に家を出て、山道を数時間歩いて診療を受けに来ていました。診療時間には限りがあり、遅めにやって来た被災者が長時間並んでも診療が受けられない状況を考慮し、専門家らは診療時間を何度も延長し、寒い中でも全力を尽くして一人でも多くの患者を診療したため、被災者はとても感激していました。今回の無料問診では合計799名の患者を診療し、被災者に薬品3万元分を無償提供し、患者らは無料の診療とともに無料の薬品も手にすることができました。

被災地では現在、基盤施設の再建に国内外の物質的支援を必要とするほか、被災者の心理および生理面の健康が回復してこそ、被災者は正常な生活により積極的に取り組

むことができます。JICAが組織した無料問診活動は被災者に健康回復をもたらすことを目的とするだけでなく、彼らが正常な生活を取り戻すのに必要な自信回復のためにより一層の力を注いでいます。

(JICA 同窓会事務局)

～青年海外協力隊員から～



患者の血圧を測る松井隊員

2月26日から28日まで中国人医師団が汶川地震の被災地に行って問診するという活動に参加しました。この中国人医師団は日本に医学研修に行ったことのある医師で、主に中日友好病院に勤務している医師です。今回の活動では3カ所訪問し、北川県擂鼓鎮（日本国際緊急援助隊が活動した北川中学校の近く）、同県陳家堰鎮、什邡市で活動しました。私は青年海外協力隊の四川省医療隊員ということで工藤隊員と一緒に同行させていただきました。

北川県の活動拠点ではたくさんの方々が医療団を今か今かと待ち構え、その人の多さに圧倒されました。患者は医師に多くのことを訴えかけ、医師の話を真剣に聞き入っていました。こういった山間の僻地ではなかなか高度な医療を受けるチャンスはないのではないかと感じました。医師たちは患者の気持ちに応えようと予定時間を過ぎても活動していました。彼らの情熱をすごく感じた瞬間でした。また診療時間ぎりぎりまで多くの患者がいて、中には正に帰ろうとしたバスの中まで医師を探す患者がとて印象的でした。

私たち隊員は地元テレビの取材を受けたり、血圧を測る仕事を担いました。多くの患者に血圧を測りながら、現地の人々とコミュニケーションをしました。ここには多くのチャン族の方々が暮らしており、彼らは私たちが日本人だと分かるとすごく好意的に振舞ってくれました。以前にも食事の席で中国人の方から『日本人のイメージが変わった』とか『日本人には感謝してる』とか『中国国民を代表してお礼が言いたい』など言われたことがあります。これは正に地震後の日本国際緊急援助隊の救援活動や医療活動の評価が日本人のイメージに繋がっているのではないかと感じました。今回の活動でたくさんの現地の方々からの『谢谢』という温かい言葉をいただきました。被災地に来て活動できたことは本当に有意義であると実感しました。

(四川省徳陽市第五人民医院 松井真也)

◎ 気候変動、CDM に関する日中関連政策研修セミナーを実施



会場は研修員の熱意でいっぱいでした

3月4日～8日の五日間、北京紫玉ホテルで表記のCDM(クリーン開発メカニズム)セミナーが開催されました。このセミナーはJICAと中国科学技術部が協力した技術協力プロジェクトの活動内容の一部です。

昨年5月の胡錦濤国家主席訪日の際、日中両国の代表者の間で「日本国政府と中華人民共和国政府との気候変動に関する共同声明」が署名されました。この共同声明には、日中双方がCDMのプロジェクトにおける互恵協力を継続して強化することが明記されて

います。本セミナーは、日中両国首脳が合意したCDMに関する協力を促進する具体的な事業として重要な意義を有しています。セミナーの目的は、地方政府等のCDM関係者の能力強化を図るもので、地方各省のCDMセンターや科技厅から100名の参加者が集まりました。

JICAは2006年と2007年にも科技部と共催でCDMに関する理解を深めるためのセミナーを開催し、各々50名の参加者を得ました。それにより、JICAと科技部は協力関係を築いてきており、これまでのセミナーについても高い評価を頂いています。今回は、さらに協力規模を拡大し、100名の参加者を得ることが出来ました。

セミナーには、日中ともCDM分野で著名な先生を招きました。日本側の講師としては地

球温暖化問題に17年間も携わってきた松尾直樹博士がいらっしゃいました。同博士はCDM分野における著名な専門家として、世界最初に承認されたCDMの方法論を作成し、地球温暖化問題全般、国際交渉、排出権取引制度と市場、CDM方法論など、幅広い専門知識をお持ちです。松尾博士の講義には大きな反響がありました。

講義全体は中国CDMプロジェクトの管理規定、CDMプロジェクトの追加性、方法論から展開し、CDMプロジェクトビジネス及びリスク分析を講義し、最後に気候変動の影響と適応で締めくくりました。

五日間で構成されたセミナーはグループディスカッションも取り入れ、研修生たちにとっては内容の濃い研修でした。

(環境2班 邢軍)

ニュース

■ 中曽根弘文外務大臣にお会して



中曽根外務大臣と近藤康弘隊員

去る3月1日(日)、中曽根弘文外務大臣の中国訪問懇親会にJICAより岡田総括次長、協力隊からは佐倉未穂隊員と私の3名で出席して参りました。

初めに事務所から参加のお話を頂いた時は、てっきり自分と同じ名前の中曽根康弘元首相かと勘違いしてしまいました。しかし、息子さんということを知ると早速、大臣のHPを

見て経歴等をしっかり予習してから懇親会に挑んだのでした。

当日は大使館の方々を始め、中国で活躍する在留邦人(俳優、女優、作曲家、建築家、ダンサー等)の方々もいらしており、和やかな中にも緊張感でピリピリの雰囲気は漂っていました。そしていよいよ大臣登場!

大臣の挨拶の後、乾杯をしたと思ったら、会場にぐる前の取材が押した為に15分程度しか居られないことが判明。

40名近い参加者や取材人が次から次へと大臣を囲む中、ここは負けじと長い現地生活で培ったテクニックで並んでいる人達を押し退け大臣の前にしゃしゃり出たのでした。

そして開口一番、「吉林省で日本語教師をしております、青年海外協力隊の近藤康弘と申します。お父様と同じ名前です!」とネームプレートを指してあいさつすると、大臣は「あっ、ほんとだ! 康弘だって、フツッ…」と言って微笑んでくださいました。そこですかさず写真のお願いをすると快く応じてくださり、「しっ

かり頑張っね。」と励ましのお言葉をいただいたところで制限時間終了～！となったのでした。

お話できた時間はあっという間でしたが、話してみると思ったよりも気さくな方でした。

大臣が退室されてからは緊張感が解けたからか、はたまた普段は日本食を食べられないからか、ビュッフェで「かけそば」を思わず3杯もおかわりしてしまいました。

最後になりましたが、今回このような機会を得たのは、たまたま北京へ上京していたためでした。

懇親会に参加することは突然のことだったため、フォーマルな服は持ち合わせていませんでした。そこで、JICA 中国事務所の鈴木さんに「やっぱり普段着のジャージじゃまずいですよね～…」と相談したところ、事務所員の竹内さんから私にぴったりのスーツを借りる手配をしてくださりました。

お二人にこの場を借りて改めて御礼申し上げます。有難うございました。
(吉林省鎮賚県 鎮賚県第三中学 青年海外協力隊日本語教師 近藤康弘)

■ 日中環境協力フォーラム開催



新しい環境協力のスタートです

2月24日、北京市にある日中友好環境保全センターで、「日中環境協力フォーラム／循環型経済推進プロジェクト開幕式」が開催され、日中の関係者約250名が参加しました。

深刻化する中国の環境問題に対し、JICAは新しい大型プロジェクトとして「循環型経済推進プロジェクト」を立ち上げ、環境に優しい企業活動や環境教育の振興のため、日本の

経験に基づく支援を行い、中国の循環経済の実現に貢献することを目指します。

今回のイベントは、プロジェクト紹介と同時に一段高いマクロ的な観点から日中環境協力を展望するイベントとして開催され、日中のマスコミあわせて約10社が取材に来る等、関心を集めました。中国側からは「経済発展と環境保護は中国の両足であり、両方のバランスが崩れると倒れてしまう」との発表があり、今後中国が更に環境保護に力を入れることを伺わせる内容となりました。JICAとしても中国の取り組みに対し大いに支援して行きたいと考えています。(環境2班 大久保)

■ 住宅省エネプロジェクト成果発表セミナーを開催

2月27日に北京市で「中国住宅省エネルギー技術向上プロジェクト」の成果発表セミナーが実施されました。

「住宅省エネ」プロジェクトは、中国における省エネに配慮した住宅建築のために2007年6月から開始され、住宅建築における「設計施工ガイドライン」と「評価指標・方法」を作成することを具体的目標として、JICA 専門家である砺波匡リーダーと住宅都市農村建設部のカウンターパート機関が協力して活動を進めてきました。今年5月のプロジェクト終了を前に、「設計施工ガイドライン」と「評価指標・方法」の案が作成されたため、その内容を関係者に広く紹介し、完成に向けての議論を深めるために今回のセミナーは開催されました。

セミナーには、日中双方の関係者約50名が参加し、普及方法等について活発な意見交換が行なわれました。住まいという身近な分野での省エネを目指したこのプロジェクトの成果が中国で広く、省エネ実現に活用されることが我々関係者の願いです。

(環境2班 大久保)

■ 2008年度JDS留学生第1陣の8名が日本へ出発



頑張って、日本で勉強してきます

2008年度中国における人材育成支援無償事業—「人材育成奨学計画(JDS)」第1陣8(日本語コース)が3月3日に日本へ出発しました。

出発する前に、留学生向けの現地オリエンテーションが京倫飯店で実施されました。オリエンテーションにおいてODA事業や留学生生活に関する講座・説明等に加え、「JICA職員との意見交換会」も設けられてました。今回訪日の8名留学生は江蘇省、江西省、四川省、貴州省、遼寧省、天津市の地方政府機関及び全国人民代表大会常務弁公庁の若手公務員から構成されているため、この機会に留学生たちがJICA事業に対する理解を深められるとともに、当事務所課題担当職員との交流を通じて人的ネットワークの構築にも有益なものになったと思います。

出発前日の夜(3月2日)、日本大使館主催の壮行会も行われました。大使館経済部の片山公使、商務部国際司の張克寧商務参事官、当事務所の藤本次長が出席され、留学生たちと交流したとともに励ましの言葉を送りました。

第2陣40名(英語コース)は6月の初めに日本へ出発する予定です。

(相互理解班 周妍)

■ 上海で「省エネ推進セミナー」を開催

3月1日から7日に、草の根技術協力事業「上海 ESCO・省エネ技術移転のための人材

育成事業」の専門家6人が上海市に派遣され、現地セミナーを開催、あわせて企業での省エネ診断等を行ないました。

専門家グループは大阪府の職員と省エネ関連の企業関係者等で構成され、セミナーでは約100名の参加者に大阪のESCO(省エネコンサルティング)振興や企業の省エネの取り組みについて紹介しました。また、モデル企業としてスプリング製造会社やショッピングセンターを訪問した際には、工場視察等を通じて省エネ向上のための具体的アドバイスを行ないました。

大阪府と上海市は30年に及ぶ交流の歴史があり、このプロジェクトもこの基盤の上に実施し、大阪府の大きな協力を得ています。国際都市上海の省エネ推進は非常に意義が大きいので、今後も内容が更に充実するよう、大阪府の皆様と協力して行きたいと考えています。(相互理解班/業務班 王莉)

■ 早稲田大学、慶応大学、名古屋市立大学の皆さんが相次いでJICA中国事務所を訪問!

昨今、大学で国際協力や開発援助を学ぶ機会が増え、また環境問題などのグローバル 이슈を研究テーマとして取り組む学生が増加しています。こうした問題に関心を持つ早稲田大学大学院アジア太平洋研究科松岡俊二ゼミ、慶応大学総合政策学部草野厚ゼミ、名古屋市立大学の学生の皆さんが、2月から3月にかけて訪中された機会に、相次いで当事務所を訪問し、所員から中国の実情等を聞く機会がありました。

筆者が担当した名古屋市立大学の皆さんを紹介しましょう。引率された浜本篤史先生は、社会学がご専門の中国研究者。以前JICA中国事務所インターンを経験された縁で、今回の事務所訪問につながりました。事務所では筆者から「対中ODAの動向と四川大地震への緊急援助・復興支援」、また、臣川ボランティア調整員から中国におけるボランティア事業について概要説明を受けた後、

江西省吉安県で看護師として活動した佐倉未穂青年海外協力隊員の帰国報告会に出席し、現地での活動を終了したばかりの同隊員から、貧困地区の保健医療状況について話を聞きました。

終了後、人文社会学部人間科学科 1年葛西斐奈さんから、次のメッセージをいただきました。皆さん、ありがとうございました！皆さんの中から未来の協力隊員、専門家が誕生することを期待しています！！

「今までJICAについて名前を聞いたことがあるという程度の浅い知識しか持っていませんでしたが、対中 ODA の現状と課題や青年海外協力隊の活動について、詳しく学ぶことができました。初めて知ることが多く、日本での日常生活の中で触れる機会の少ない部分だったので、とても良い機会になりました。

JICA について知ること、日中のつながりを身近に感じ、これかれらもっと注目していきたいと思いました。」(総括次長 岡田 実)



学生の皆さんとの交流は私達にとっても励みになります

人の動き ・ 主要行事

(1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)

- ・甘肅エイズ終了時評価調査団(3/2-25)
- ・気象プロジェクト終了時評価(3/13-25)
- ・環境プロ形調査団(3/16-20)

(2) 長期専門家・ボランティアの動き

<長期専門家>

ア. 赴任

- ・山路 博文(2009.2.28~2009.6.30)
中西部地区リハビリテーション人材養成プロジェクト

イ. 帰国

- ・立花 秀正(2006.4.24~2009.3.31)
大連ビジネス人材育成計画
- ・藤原 利恵(2006.6.29~2009.3.31)
中西部リプロダクティブヘルス

<ボランティア>

ア. 赴任:

派遣期間(2009.3.23~2011.3.22)

【青年海外協力隊】

- 今泉 智子 日本語教師

貴州師範大学

- 清岡 奈帆子 日本語教師
湖北ユン陽師範高等専科学校

イ. 帰国:

派遣期間(2007.3.29~2009.3.28)

- 村松 愛子 理学療法士
開封市第一人民病院
- 砂辺 美紀 日本語教師
撫順市朝鮮族第一中学
- 市原 明日香 日本語教師
貴州大学
- 松田 理恵 日本語教師
新疆大学
- 岩永 清邦 野球
新郷市体育運動学校
- 星野 美帆 看護師
河池市第一人民病院
- 工藤 さやか 看護師
徳昌県中医病院
- 前田 愛子 看護師
河池市人民病院
- 矢野 聖子 日本語教師
江西農業大学商学院

- 宮腰 卓秀 日本語教師
内蒙古オールドス市第三中学
- 渡辺 美穂 小学校教諭
柳州市箭盤山小学
- 佐倉 美穂 看護師
江西省吉安県リプロダクティブヘルス・
家庭保健サービスセンター

(3) 事務所員等の動き

<日本人所員>

ア. 赴任

- ・木下 真人 企画調査員
(2009.3.26~2010.3.26)

イ. 帰国

なし

<ナショナルスタッフ>

ア. 採用

なし

イ. 退職

なし

(4) 3月の主要行事

なし

寄稿 コーナー

(1) 「ミhilバングリさんを救う会」に参加して



熱心に募金活動をする協力隊の皆さん

私達は、新疆ウイグル自治区で活動している青年海外協力隊員です。今回、ミhilバングリさんという方への募金活動を行いました。

ミhilバングリさんは、以前ウルムチの内モンゴル師範学校で日本語を教えていらした際、当時の協力隊員のカウンターパート(同僚)をされていた方です。この度私達は、先輩隊員からの連絡により、現在彼女が白血病を患っていることを知りました。彼女が経済的に困難な家庭環境にあること、また、治療には日本円で最低でも500万円の費用がかかるということから、日本でも『ミhilバ

ングリさんを救う会』として募金活動がなされているとのことでした。

そこで私達も、北京のボランティア総会時を利用して募金活動を行いました。皆様の温かいご支援のお陰で、募金総額は2672.9元(約38,000円)にも上り、募金箱と一緒に用意した色紙にも、たくさんの励ましの言葉をいただきました。

1月18日、私達は、皆様からいただいた募金と寄せ書きを持って、ミhilバングリさんの入院先の病院を訪れました。彼女はベッドから起き上がり、元気そうな笑顔を私達に向けてくれ、また、募金と寄せ書きにも非常に感激されていました。その時、もうすでにドナーが見つかり、春節明けに手術を控えているということでした。

そしてその後2月26日から二日にかけて手術が行われたそうです。今後、順調に回復され、日本研究者としての夢を実現されることを祈っています。また、いつか再び協力隊員とともに、新疆の日本語教育発展に力を注いでくださることを期待しています。

最後に、ご協力していただいた方々に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

詳しくは下記のURLをご参照ください。

<http://blog.goo.ne.jp/gulichan>

新疆ウイグル自治区派遣ボランティア

新疆大学外国語学院 日本語教師 松田理恵

新疆農業大学 日本語教師 花田藍子

ウルムチ温泉病院 理学療法士 岡本和恵

新疆師範大学 日本語教師 酒見志奈子

(2) 日中林業生態研修センター計画 ～訪日研修感想～

私は2008年12月10日から19日まで十日間、日中林業生態研修センター計画の活動として訪日研修に参加し、日本の林業行政管理分野の現場を見ました。初めての訪日での深い印象を、以下のように書き留めます。

一、森林

日本の森林カバー率は67%。日本の森林のha当たり蓄積量は高く、177 m³に達します。日本の人工林は近熟林と成熟林が多く、利用可能な段階ですが、将来の持続的発展の可能性を考えなければなりません。



日本の森林経営法を学びました

日本の年平均降水量は1718ミリもあります。中国の乾燥・半乾燥地区での人工造林は、限りある降水量を有効利用して如何に活着率を向上させるかが経営の主要な問題になっていますが、日本の方は如何に経営管理に工夫をこらすかということが主要な問題です。これは本質的な違いです。

日本は「京都議定書」で承諾された森林炭素吸収のために、森林間伐を実施しています。

二、環境

外国人にとっての日本の森林生態環境や都市環境のイメージは清潔できれいです。都市と農村の間にはほとんど格差がなく、むしろ農村の方が都市より快適です。農村は密集して森林にも囲まれていて、とても美しいです。考察と移動中にいつでもどこかに森林が見えるということは、67%という森林カバー率が、本当に高い数値であることを発見させられます。

三、都市

今回比較的長く滞在した都市は、東京と広島です。

1. 交通



小さな車が沢山ありました

東京の交通はまさに立体交通です。日本は自動車生産大国なのに、市内の自動車はそんなに多くなく、排気量が小さくコンパクトな車が多いのです。広島の古い路面電車は、懐かしい感じで、少しも時代遅れの感じはしません。交差点では信号が変わる時にいつも音が出て、道路を横断するときの注意を促し、秩序も非常によいのです。日本滞在中に信号無視は一度も見ませんでした。

2. 文字

街を歩くと、周囲は全部あふれるばかりのカタカナの広告看板です。これは、日本が積極的に欧米文化を導入してきた影響で、あまりに多くのモダンな雰囲気が表示されています。またこれは、日本の伝統文化にとっては深刻なチャレンジでもあります。

3. サービス意識

私たちは、滞在中何度も道に迷いました。その度に、近くの店員や通行人に助けを求めることになりましたが、彼らは私たちが完

全に理解するまで教えてくれました。時には自分の仕事の手を止めて、外に出て詳しく教えてくれることもありました。

商店やレストランの店員は何時も忙しそう
で、暇な人を目にするのは滅多にありません。そして、その動作は驚くほど機敏で速い
ものでした。

今回の訪日研修では、専門の林業分野以外でも多くのことを学びました。この訪日研修の順調な実施に関係した全ての方々に感謝いたします。

(帰国研修員 国家林業局管理幹部学院 玉宝)

帰・赴任者紹介コーナー

(1) 長期専門家 立場正夫



2月16日に「循環型経済推進プロジェクト」のチーフアドバイザーとして2年間の任期で着任しました。

本プロジェクトは、社会活動における資源の投入・生産から廃棄や処分に至る一連のサイクルに沿った総合な環境保全対策の実施を目指します。具体的には「政府グリーン購入など環境に配慮した事業活動の推進」や「国民の環境意識向上に資するための環境プラザの設置・運営」、「エコタウンの整備と推進」、更には「廃棄物の適正管理の推進」などがその主な柱となっております。将に、世界的な金融危機と大不況下において円滑な経済発展と環境保全の両者の調和を目指します。今後は、本プロジェクトでの活動状況や関連情報の発信に努め、皆様との情報交換や交流を通じて、中国の環境改善や保全に努めますのでよろしくお願いいたします。

さて、中国での勤務は15年ぶりですが新空港や街並みの変貌、車の渋滞や高層ビル群にはただ驚くばかりです。一方で、胡同や

黒塗りの自転車、練炭売りのリヤカー、空港通りの柳絮飛散が陰を潜めたことは一抹の寂しさがあります。休日には、史跡や古き良き名所を巡り、新たな北京を発見することが楽しみです。(長期専門家 立場正夫)

(2) 長期専門家 山路博文



2月末から中西部リハビリテーション人材養成プロジェクトの短期専門家として赴任しております山路博文と申します。国際医療福祉大学から派遣されております。中国のポップス(特に王菲、劉若英!)や料理(包子や小籠包の包み系)が大好きでしたので、文化に馴染みのある地で働かせていただき大変うれしく思っています。4ヶ月という短い間ですが、心強い同じ部署の皆さんと一緒に、プロジェクトが円滑に進むように全力で取り組んで参りたいと思いますので、御指導、御鞭撻の程よろしくお願いいたします。

(長期専門家 山路博文)

中国の動き

全人代会議が開催！ ～簡体字と繁体字のPK戦～



色々な提案が次から次へと提出されました

平日とは違う華やかなライトアップに伴い、3月3日に中国の政治の中心地である北京で例年通り「两会」が開催されました。「两会」という言葉は中国人にとって、すでにすごく耳慣れた言葉の一つでしょう。具体的に何を指すかという点、「全国政治協商会議」（以下「全国政協」）と「全国人民代表大会」の略称です。

全国各地から色々な職種、身分、民族を代表する委員たちが天安門の人民大会堂に集まって、様々な議題について討論します。「老百姓」（庶民）である私たちも毎日ニュースに耳を傾け、身の回りが何か変わるかもしれないと会議の行方を真剣に注目しています。

会議が始まる前に、委員たちは多彩な提案を出し、会議中にみんなで議論するわけですが、インターネットやマスコミが発達している現在、これらの議題をめぐる議論は委員間だけに止まることなく、全国民の議論へとレベルアップしてしまいます。

今回は次のような例を紹介したいと思います

す。

全国政協委員の潘慶林氏は「これから10年間をかけて、全国範囲で簡体字（中国で使われている簡略化された漢字）を廃棄し、繁体字（元々の漢字）を使いましょう」という提案を出しました。理由としては、①20世紀50年代頒布された「簡略漢字総表」は粗末で漢字の芸術性をなくした；②PCで入力する人が増える今、いくら複雑な字であっても怖くない；③大陸でも繁体字を使えば、台湾との関係がよりよくなるといった3点が挙げられました。

新中国の「漢字略称方案」が1956年に頒布されてからもう50年以上が経ちました。簡体字の歴史を更にさかのぼっていけば、大昔の南北時代（4～6世紀）にもう姿を現していました。

この提案が公開された当日、ネット上では大騒ぎになってしまいました。「いまさら簡体字がだめだ、中国人全員にやり直せと言っても、実施可能性は非常に低いでしょう」とか、「私の使っている中国語が否定された」とか、また、「繁体字の勉強を個人の趣味として、普及を進めても誰も反対することはないでしょう」等熱意な議論をしました。どっちが良いか、どっちが正しいか、何ともいえないと思いますが、「簡体字擁護派」と「繁体字擁護派」との戦いは人々の注目を浴びています。

（相互理解班 周迎）



独立行政法人 国際協力機構
中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京發展大廈400室 郵便番号：100004
TEL：+86-10-6590-9250 FAX：+86-10-6590-9260

=====
* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などもいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静 (shenxiaojing.cn@jica.go.jp) までお願いいたします。
=====

* その他お知らせ

JICAのホームページ： チャイナ ライブラリー（和文・中文）

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チャイナ トピックス（和文・中文）

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>

